

# 福島第一原子力発電所の状況

2015年4月15日  
東京電力株式会社

## <1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (4/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m <sup>3</sup> /h	16.6	0.5 kPa g	A系： 0.01 vol%	B系： 0.00 vol%
		給水系：約2.5 m <sup>3</sup> /h				
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.2 m <sup>3</sup> /h	23.0	8.25 kPa g	A系： 0.04 vol%	B系： 0.04 vol%
		給水系：約2.0 m <sup>3</sup> /h				
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m <sup>3</sup> /h	20.2	0.22 kPa g	A系： 0.04 vol%	B系： 0.05 vol%
		給水系：約1.8 m <sup>3</sup> /h				

## <2. 使用済燃料プールの状況> (4/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	16.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	16.8 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	13.2 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	11.7 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドランジンの注入を適宜実施。

## <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	4/14 10:49 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	4/14 11:34 ~ 移送実施中

## <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (4/15 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## <5. その他>

・2015/4/10～ 国際廃炉研究開発機構(IRID)にて、「原子炉格納容器内部調査技術の開発」における1号機原子炉格納容器内部調査の実証試験を開始。

<目的>

今後、1号機原子炉格納容器内の地下階の燃料デブリの広がり状況を把握することや、地下階へのアクセス開口部の使用可否等についての事前調査。

#### <具体的な内容>

原子炉格納容器内へ初めてロボット(クローラ調査装置)を投入し、「原子炉格納容器内の1階グレーチング上」の情報取得を目的とした調査を実施。

#### <事前調査(反時計回り)の実績>

- ・9:25 頃、1号機原子炉格納容器内へのロボットの投入作業を開始
- ・10:45、ロボットが原子炉格納容器グレーチング上に到着
- ・11:20、グレーチング上において調査のための走行を開始
- ・14:09、約3分の2の調査範囲を走行し、その後、14:16 にロボットが走行停止状態となった。

4/12 までに、走行停止状態となったロボットの回収作業および原因調査を実施していたが、当該のロボットの回収が困難であることや、グレーチング上において、約3分の2の調査範囲を走行し、調査ポイントである18箇所のうち、地下アクセス開口部を含んだ14箇所の調査を実施できたことから、4/13、ロボットのケーブルを切断する作業\*を実施するとともに、引き続き原因調査を行うこととした。

※今回の実証試験の計画では、ロボットの回収が困難な場合は、ケーブルを切断することを想定していた。

4/10 に反時計回りルートの調査時にロボットが走行停止状態となったことについては、その後のモックアップによる調査等により、狭隘箇所を通過する際にグレーチングの切り欠き部分で、装置左側クローラが脱輪し、その後、脱出を試みるうちにグレーチング接合部の隙間に右側クローラが入り込んだことが原因と推定。

そのため、時計回りルートの調査時には、落下物・障害物・グレーチングの状態を詳細に確認しながら進む、判断に迷う場合は立ち止まって対応を検討するなど、慎重に作業を実施する。

また、反時計回りルートの調査により、ロボットが当初の想定(約10時間)よりも長い期間(2~3日)、原子炉格納容器内の線量に耐えられるという、貴重な知見も得られているため、現場の状況を慎重に確認しながら、調査時に何かあれば立ち止まり、協議しながら調査することとしており、数日にわたって調査を行うことも考えている。

4/15~ このたび、準備が整ったことから、原子炉格納容器内部のさらなる情報の収集を目的として、時計回りルートの調査を開始。

#### <事前調査(時計回り)の実績>

- ・10:00、1号機原子炉格納容器内へのロボットの投入作業を開始
- ・11:15、ロボットが原子炉格納容器グレーチング上に到着
- ・11:43、グレーチング上において調査のための走行を開始
- ・15:43、今回の調査ポイントである11箇所のうち、6箇所の調査を実施

1号機原子炉格納容器内部へのロボットの投入は、前人未到の挑戦であり、調査を通じて貴重なデータが得られていることについては、今後の廃炉作業を行う上で大きな一歩だと考えている。今回得られたデータをひとつひとつ積み上げて、廃炉作業に活かしていく。

4/16 9:30~ 今後の調査を引き続き実施する予定。

- ・2015/2/5~ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。  
その後、4/2 よりトンネル天井部の充填作業を開始、4/8 までにトンネル部全体の充填が完了するとともに、同量の滞留水の除去が完了。  
明日(4/16)、トンネル部の充填状況を確認するための揚水試験を実施する予定。
- ・2015/2/14~ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。3/21 までに約460m<sup>3</sup>の充填作業を実施し、トンネル部の同量の滞留水の除去が完了。今後、開口部ⅡおよびⅢについて充填を行うこととしており、本日(4/15)9:00~10:39、開口部Ⅱに対して、約42m<sup>3</sup>の充填作業を実施。
- ・2015/2/24~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。  
立坑A、Dともに、4/7 までに1サイクル目の充填が完了したことから、4/9、立坑A・Dの1サイクル目の充填状況および、トンネルA・Cの連通量の改善状況を確認することを目的に、揚水試験を実施。試験の結果については、取りまとまった段階でお知らせさせていただく。
- ・2014/6/2~ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/3/16~ 1号機原子炉建屋カバー解体工事に向けて準備工事を開始。

**【地下水バイパス揚水井の状況】**

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

**【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】**

<地下水観測孔サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上